

むくのきだより 6月号



令和5年5月31日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

学びをつなげる～架け橋期の教育の充実～

園長 中村 美奈子

梅雨入りのニュースが流れる頃となりました。雨の日、フィンランドのプリスクールを視察したことを思い出します。フィンランドでは、小学校入学前の1年間、6歳児がプリスクールに通います。子供たちは、レインスーツに長靴姿。大きな水たまりで大きくジャンプし、思いっきり遊んでいる姿が、とても楽しそうに見えたのです。十分楽しんだ後は、小学校のように机のある教室に入り、お話を聞いたり、誰と何をして遊ぶか発表したりしていました。机を寄せ合い、「友達と仲良く遊ぶのにはどうしたらよいか」を絵に描いて話し合っている場面もありました。9割以上の子供たちが通う保育園の子供だけでなく、家庭保育の子供もプリスクールに通うことができます。保育園からプリスクールを経て、小学校とスムーズに移行できるカリキュラムになっていました。

日本でも就学前の5歳児から小学校1年生の2年間で「架け橋期」として、その重要性が議論されています。令和5年2月、中央教育審議会初等中等教育分科会の「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」が、「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」を取りまとめました。その中で、幼児期の遊びを通した学びの特性を理解し、幼稚園・保育園・小学校が協働してカリキュラムを作成し、日々の教育活動を充実させていく重要性が示されました。幼児期の子供に必要なのは、文字や計算の訓練ではありません。子供は遊びの中で、頭も心も体も動かして、自分から自然・人・物に直接関わり総合的に学んでいきます。遊びながら考え、想像し、自分の体や創作物を使って表現したり、友達と刺激し合って興味を広げたりしていきます。

赤羽幼稚園では、赤羽小学校や近隣保育園との連携を大切にしています。5月17日には、保幼小合同研修会を行いました。飯倉保育園・赤羽幼稚園・赤羽小学校の教職員が集まり、1年生の授業を参観し、スタートカリキュラムについて協議しました。スタートカリキュラムとは、小学校の入学当初に行うもので、「保育園・幼稚園で遊びを通して育まれてきた学び」と「小学校の学び」が円滑に接続されるように工夫した指導を行います。赤羽幼稚園と赤羽小学校が協働でカリキュラムを作成しました。また、年間を通して保育園や小学校と連携したカリキュラムを実施しています。5月24日には、年長ゆり組の子供たちが飯倉保育園に行き、一緒にタグラグビーをしました。日頃の友達だけでなく、年長しか組の友達と交流することで、新たな刺激を受けていました。今後も、他園との交流や小学生との交流を計画しています。今年度は中学校の職場体験も受け入れ、中学生とも交流する予定です。様々な人との出会い、多様な遊びを通して、子供たちを育てていきます。

